

# 生活者通信

生活と政治をつなぐ情報紙

No.338  
2019.11.1

## 東京・生活者ネットワーク

発行 東京・生活者ネットワーク  
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASK ビル4・5階  
TEL.03-3200-9189 FAX.03-3200-9274  
Eメール tokyo@seikatsusha.net  
URL http://www.seikatsusha.me  
発行責任者 西崎光子  
定価 年間1000円・1部100円 郵便振替口座 00130-3-18417  
毎月1回1日発行 1994年5月23日第三種郵便物認可

### 生活者ネットワーク3つのルール

- 1 議員は交代制(ローテーション)**  
生活者ネットワークの議員は、最長でも3期12年で交代します。議員を職業化・特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などに、その経験を活かします。
- 2 議員報酬は市民の政治活動資金に**  
生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員報酬は、市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。
- 3 選挙はカンパとボランティアで**  
選挙は、政治に参加する入り口です。みんなでカンパ(金)と知恵や労力(ボランティア)を出し合い、選挙を行います。

## 都議会ネット

- 小笠原諸島振興開発計画(2019年~2023年)策定。
- 2020年度各局予算要求概要。

## 地域ネット

### 大田ネット

OTA未来カフェ「ジェンダー問題」について  
11月16日(土)14:00~16:00 大田・生活者ネットワーク事務所(大田区蒲田4-42-3 イースタンコーポ蒲田203号・JR蒲田駅)  
03-6424-7561

### 品川ネット

韓国って『敵』なの?! 日韓関係を検証し対話を求めるシンポ  
11月20日(水)18:30~ 大田区産業プラザPiO4階コンベンションホール(大田区南蒲田1-20-20・京急蒲田駅) パネリスト:内田雅敏(弁護士)、宋世一(ソン・セイル)(在日韓国民民主統一連合副議長) 700円 主催:戦争をさせない1000人委員会東京南部 連絡先03-5751-7105

### 豊島ネット

政治に全く興味が無い人に、今、聞いてもらいたい憲法の話  
11月23日(土)15:00~17:30 RYOZAN PARK 大塚(豊島区南大塚3-36-7 南大塚T&Tビル7階・JR大塚駅南口5分) 講師:伊藤真(弁護士) 1000円、18歳以下無料 主催:運動グループ地域協議会 03-5917-4272

### 西東京ネット

映画「ダムネーション」  
11月24日(日)①13:15~ ②15:00~ プラス・ド・パスレル(西東京市泉町3-12-25 パスレル保谷2階/西武池袋線保谷駅徒歩15分 or バス「保谷庁舎」下車) 1000円、子ども・学生500円 042-453-4121

### 練馬ネット

体によくない化学物質~柔軟剤の香りは私たちの暮らしに必要ですか?  
12月2日(月)10:00~12:00 練馬区役所本庁舎20階交流会場(西武池袋線・大江戸線練馬駅7分) 講師:内田義之(医師) 申込みしめ切り11/22 主催:運動グループ練馬地域協議会 03-3993-4899

生活者ネットワークは東京都内34の自治体にあり、都議1人、市・区議41人の女性議員とともにそれぞれの地域課題に取り組むと同時に、市や区をこえた「東京問題」には全体で取り組んでいます。  
**東京を生活のまち、安心・共生・自治のまちにするために発言を続けます。**

# 杉江弘さんに聞く——23区羽田問題プロジェクト緊急学習会 一番心配なのは、墜落事故

国と羽田空港は、来年3月以降、都心上空を旅客機が低空飛行する新ルートの運用を強引に計画決定した。国際線の発着回数を、これまでの年間6万回から9・9万回に増やす予定で、現在の「海から入って海から出る」ルートから、世界に類を見ない人口密集地・東京都心を眼下に飛行機が低空で降下する計画だ。しかも、その進入角が世界一難しい、3・5度となるのが8月に示された。これらの問題点について、9月30日、航空評論家で元JAL機長の杉江弘さんに聞く緊急学習会を開催した。



23区羽田問題プロジェクト緊急学習会で、講演する杉江弘さん。2019年9月30日、東京・生活者ネットワーク会議室

この日、講師を迎えた杉江弘さんは、ジャンボジェット(B747)飛行時間世界一の記録を更新中のレジェンドである。杉江さんは開口一番、十分に余力のある成田を捨てて羽田にシフトする国の愚策を両断、以下、必ずや破綻する都心低空飛行の問題点を列挙した。

### ▼大井町上空最大騒音80デシベルの根拠がない

国交省は美機飛行もシミュレーションもせずに、伊丹空港など数カ所での、7・77の騒音を参考に、80

デシベルを算出したに過ぎない。さらに着陸時の進入角を世界標準の3・0度から3・5度とする、としているが、危険極まる進入角を採用したところで、品川区大井町付近で30メートル程高度を上げるに過ぎない。これによって騒音を0・2〜0・4デシベル軽減できるというのだが、その程度では人間の耳は変化を感じない。エンジン音は、重さやフラップ(動翼)の角度によるのであって、さらにはその時の風や気温によりエンジンの出力を変えられた

め、80デシベルをはるかに超えることが想定される。実機が飛んだら、住民は黙っていないだろう。

▼落下物はなくせない

普段行う機長や整備士の目視点検では劣化したパネルや部品の発見はできず、整備基準に沿った定期検査が行われる。国は各航空会社に落下物をなくす点検強化を求めている。しかし「落下物はあつてあたりまえ、不可抗力だ」という考え方が世界標準ということもあり、基準を超えた整備の義務化は不可能だ。最終的には補償しかないと考えているようだが、国には責任を持つ姿勢はまったくない、ということだ。

### ▼都心に飛行機が落ちる!

一番心配しているのが、墜落事故だ。パイロットの訓練は、安全性と騒音との兼ね合いから進入角度「3・0」で行われている。例外的にフランクフルトの3・2度があるくらいで、3・5度はジェットコースター並みの急降下だ。そのため、着陸時には3・5度で急降下した機は、滑走路近くで機首を上げることになる。このフレアと呼ばれる操作のタイミング

はかなりの技量を必要とするため、尻もち事故の可能性が高くなる。大都市上空の飛行経験の少ないパイロットは、ハイテク機による3・5度の設定での自動操縦を選択することが増えると考えられるが、ハイテク機は複雑なため、データ入力ミスやモード切り替え時の誤作動などでコンピュータが暴走、コントロール不能な状況による墜落事故が起きているのが現状だ。

東京・生活者ネットワークは2016年3月、「23区羽田問題プロジェクト」を設置し、都心上空飛行新ルートの問題点を都議会、区議会に取りあげ、「計画は容認できない」とする地域住民とともに国、都議会への請願や院内での要請行動、集会、パレードなどを展開してきた。直下住民の理解を前提とする約束を反故にしての国交大臣による計画決定を受けて後には、計画の撤回と合理的代替案の再提示を求める要請を行った。

## 被害者は誰も納得しない 東電刑事裁判のありえない無罪判決

福島県の原発事故被害者を中心に全国約1万5千人の刑事告訴から始まった、東電元経営陣に対する福島原発事故の責任を問う刑事裁判の判決が、9月19日に下された。裁判長は驚くほどあっさり「被告人はいずれも無罪です」と言い渡し、その後3時間半に渡り判決理由を、聞き取れないほどの早口で読み上げた。それは、これまでの37回にわたる公判で審理された多くの事実が、まるで無かったかのごとく無視され、東電側に都合の良い部分だけを拾いあげているように思えた。例えば原発の安全性に関して、事故前の「社会通念」が「事故の可能性を限りなくゼロに近くすることを前提としていない」のだと認定したり、政府機関である地震調査研究推進本部が公表した、最新知見としての長期評価の信頼性を全面的に否定したり、双葉病院の避難による死亡の過程も含め、原発事故の被害について具体的にはほとんど触れず無視をした。

すべてが原発を存続させたい行政におもねった判断だったと感じる。これでは、事故を反省し教訓とすることができないばかりか、再び同じような事故を招きかねない。裁判所までも飲み込む今の社会の闇の深さを思い知った。

刑事告訴から裁判を開くまでの道のりは長かった。告訴人を集めることから始まり、検察による2回の不起訴処分、検察審査会での起訴相当議決、その度に東京地検、東京地裁と上京してアピールを続けた。東電には自首を求め、署名集めや書籍や映画の作成と、さまざまな行動に明け暮れた。ようやく手にした裁判には、福島からも多くの被害者が始発電車に乗って傍聴に駆けつけた。避難先からも通い続けた。この



東電刑事裁判の判決が言い渡された東京地裁前で、「全員無罪 不当判決」の紙を掲げる、福島から避難している告訴団の女性たち。9月19日

判決で、そんな仲間や支援者がどんなにがっかりするだろうかと、それが一番辛かった。

しかし、判決から2日後に立ち上げた、検察官役の指定弁護士へ控訴を求める署名には、ネットと紙を合わせて瞬間に約2万筆の署名が集まった。誰も納得なんかしていないんだと、心が熱くなった。検察官役の指定弁護士は9月30日の控訴にあたり「このまま判決を確定させることは著しく正義に反する」と述べた。そうだ、私たちの社会が生んだこのような判決、このような裁判所をこのままにしてはいけない。この判決の不当性を多くの人に知らせ、再び控訴審に向けてできることをやってみよう。



武藤 類子 福島原発刑事訴訟支援団副団長



Information

ドキュメンタリー映画「OKINAWA1965」上映&映画を語る会
11月16日(土) 18:45~20:50 ルネこだいらレセプションホール(小平駅) 800円
小平自主上映の会080-5033-2282 (武田)

特別展セミナー「植民地主義に抗した朝鮮のフェミニスト」
11月17日(日) 14:00~16:00 wamオープンスペース(早稲田駅) ゲスト: 宋連玉(ソノク)
(青山学院大学名誉教授) 800円 wam 女たちの戦争と平和資料館03-3202-4633

東海第二原発の20年延長を許さない! 11.27 廃炉デー大アクション
11月27日(水) 日本原電本店前(台東区上野5-2-1) 15:00~署名提出、16:00~デモ
(秋葉原周辺)、17:30~18:30 集会とヒューマンチェーン とめよう!東海第二原発首
都圏連絡会/再稼働阻止全国ネットワーク070-6650-5549

国連人権勧告の実現を!
12月7日(土) 13:30~15:30~デモ 青山学院大学17号館3階309教室(表参道駅)
講演「仕事の世界における暴力とハラスメント撤廃条約」批准を: 角田由紀子(弁護士) ほ
か 500円 実行委員会/青山学院大学人権研究会090-9804-4196 (長谷川)

「非常事態宣言を求める
都議会に若者が提出
請願」
「グローバル気候マーチ」を
実行した若者たち「フライデー
ズ・フォー・フューチャー」(未来
のための金曜日)東京が「気候
変動に対する非常事態宣言を
求める請願」を、都議会に提出
した。請願は12月議会で審査さ
れる。都知事は、「2050年
CO2ゼロ目標」を宣言したが、
具体策を示していない。これま
でに、志岐市、鎌倉市が「気候変
動緊急事態宣言」を発令。若者
たちの訴えを真摯に受け止め、
でも具体的な施策を打ち出せ

追悼 須田春海さんを偲び、遺志を受け継ぐ

生活者ネットワークの応援隊長にして、名実ともに市民政治の旗手・須田春海さん(市民運動全国センター代表世話人)が7月11日、永眠されました。享年77歳でした。66歳の時にALSを発症、10年間の在宅療養生活をなされていました。「家族に迷惑をかける」「まだやらなければならないことがある」と、悔しそうに車いすで話されたのを思い出します。



日韓市民社会フォーラムや憲法サロン等々でご一緒いただいた須田さん。須田さんと激論を交わしたといった記憶はなく辛抱強く付き合っていたのですが、選挙のたびに熱のこもったメッセージをいただき、そこには、必ず厳しい一言が書かれていました。都議選で思わしい結果が出せなかった折の座談会でのこと。須田さんは、「都内の全地域でネットを立ち上げろ」「すべての地方議会で議席の1割をネットがとるんだ」と。ローカルパーティであれば、ネットワーク運動であれば、地域にしっかり根を張り、地域からやりなせ、とおっしゃったのだと、今にして思います。折々の直言はありがたく、何とも嬉しい限りでした。

都議会での1期目は右も左も分からないのですが、勉強したことを質問していました。10月9日の「須田さんを偲び遺志を受け継ぐ会」で須田さんが残し、その活動を通して伝えたかったことを多くの方が発表されましたが、議会で私が質問したことにすべてあったこと、須田さんの活動と実績の大きさに改めて驚かされました。自治のこと、参加型政治、バルディーズ原則、環境問題等々、今につながる問題を幅広く提起され、先駆的に行動し、発信されていたのです。遺志を繋ぎたいと思います。

こんなエピソードを一つ! 須田さんの、2007年日韓市民社会フォーラム企画でソウルを訪問し、南北朝鮮を分けるDMZを視察した折のこと。途中、トイレ休憩でバスに戻ると、バスがないのです。海外で携帯電話を使っていなかった時代でしたし、仕方なく一人で待つしかありません。ようやく戻ってきた大型バス! その後、須田さんの私に対する対応が飛び切り優しくなったのは、言うまでもありません。
東京・生活者ネットワーク元都議会議員/一般社団法人生活サポート基金元理事長・顧問 藤田愛子



河川敷の清掃活動中!

「マイバッグ・マイボトル」の推進
江川ネットは、これらの調査活動の実績をふまえて、マイクロプラスチックの問題に対して「マイバッグ・マイボトル」の推進、また、「江川川環境行動計画」や「グリーン購入指針」に基づきプラスチックの不使用やボトルに給水ができる「ボトルディスプレイ」設置について提案しました。
長年にわたり継続している調査活動だからこそ、実態をふまえた提案につながります。来年のオリンピック・パラリンピックの会場もある江川川では、マイクロプラスチック問題についても発信できるチャンスと捉え、「マイバッグ・マイボトル」を推進していくべきだと考えます。

編集後記/台風15号に続き全国に甚大な被害をもたらした19号。温帯低気圧に姿を変えた20号が追い打ちをかける2019秋。19号通過時の13日午前0時、都内1044カ所に避難所が設けられ7万6235人が避難した。大量の雨雲を運んだ台風は土流出に加え河川の氾濫をもたらした。停電も多発した。政府・行政は早急に被害実態と被災者ニーズを把握し、きめ細かな被災者支援を行うべきは言うまでもないが、TVやニュースサイトなどが伝えるマクロな情報と災害に直面した人のニーズには大きなギャップが生じてしまうといった問題を、身をもって体験した人も多かったのではないかと。自然災害の中でも気象予測が可能な台風。都内自治体でもその対策・対応は万別。前日に要支援者宅を戸別訪問した自治会、園児のいる家庭に戸別電話で対応した保育所、15号の経験に照らし自主避難所を各地域に開設した自治体も。一方で、自治体で準備されてきた防災・災害時対応マニュアルは的確なものだったか、ハザードマップは役立つかなど「私」「地域」から始める安心・安全のまちづくりへの検証の必要性を痛感する。被害の渦中にある方々へ、改めてお見舞い申し上げます。(加藤)

東京・生活者ネットワーク

都議会REPORT



世界中で異常気象が頻発。気候変動の危機に、若者たちが世界規模で抗議行動

東京・生活者ネットワーク都議会議員
山内れい子 [国立市・国分寺市]

ニューヨークの国連本部で、スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさん(16)が、地球温暖化の深刻さ、経済優先でCO2排出削減に真剣に取り組んでいないことへの抗議を、各国政府や企業に訴えた。これに先立つ9月20日(金)には世界中で若者たちが「気候危機への緊急対策」を求め「グローバル気候マーチ」を行い、世界163カ国400万人以上、日本でも東京はじめ10カ所以上約5000人が参加した。
国連気候行動サミット
日本、2050年CO2ゼロ
表明せず
世界各地で熱波や豪雨など自然災害や異常気象が止まらない。パリ協定では、地球の平均気温の上昇を2度未満、できれば1.5度に抑える「1.5℃目標」に向け、2020年からCO2削減に具体的に取り組み。しかし、トランプ米大統領はパリ協定を離脱。日本も、2020年以降の石炭火力発電所の新規建設をやるめようとの国連の要請に反し、新設や増設、海外への事業融資を計画している。23日、国連気候行動サミットで、各国首脳級や企業トップらが新たな地球温暖化の具体的な対策として、77カ国が「2050年までにCO2排出量実質ゼロ」の決意を表明した。しかし、日本は表明していない。

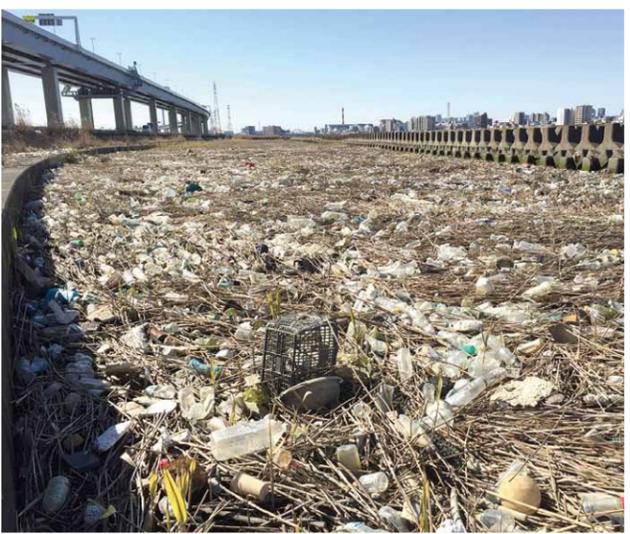
「いい香りがずっと続く」が売りの柔軟剤によって、そこかしこで香りがあふれるなか、香りを不快に感じる人や頭痛やめまい、咳、吐き気、かゆみや湿疹などの症状を引き起こす人が増えている。化学物質過敏症の人が「香害」によって、学校や職場に通えなくなる事態も。例えば、学校給食の白衣に、前に使った人の洗剤の香りが残って体調を崩すこともある。
「香害」の対策強化を!
柔軟剤・洗剤・消臭除菌剤の香り被害
一昨年、日本消費者連盟が開催した「香害110番」には2日間で200件以上の相談が寄せられた。こうしたなか、都では、柔軟剤の使い方に関する注意喚起の情報をHP「東京くらしWEB」に載せた。さらに、各自自治体では、「柔軟仕上げ剤などに含まれる香料成分表示を求める意見書」を国に出す動きがある。多摩市議会では10月4日全会一致で採択された。被害を防ぐため積極的な取り組みを求めていく。

香料成分表示を求める意見書 多摩市議会で採択

できる! プラスチックごみ削減——江戸川発
STOP! マイクロプラスチック
を実現しよう
江戸川・生活者ネットワーク区議会議員
伊藤ひとみ
地球温暖化防止に向けた温室効果ガス削減、また、生態系に深刻な影響を与える海洋汚染の原因となるマイクロプラスチックは、解決をはかるべき喫緊の課題です。
荒川クリーンエイドとともに河川敷から見えてくるプラスチックごみの実態
江戸川・生活者ネットワークは、1994年に現在の「NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム」が、河川敷の環境保全の活動を開始した当初から、荒川河川敷のごみ拾いとごみの調査活動の主催団体として活動してきました。2018年度、この調査活動に参加している団体は、自治体8、企業53、市民団体31、学校9団体と広がっており、回収したごみは全部で27万5730個、一番に多かったのは飲料・食品の容器包装で61%を占めていました。
レジ袋NOデイの取り組みからプラスチックごみ問題を考える
江戸川ネットが担当している河川エリアは、荒川の河口近くですが、この10年で目立ってきたのが、レジ袋やプラスチック容器・食品トレイなどの破片です。大量に使用されるプラスチック類が上流から流れ、風に飛ばされ途中で劣化し、マイクロプラスチックとなり、東京湾に流れ込み、海洋汚染の原因になっているのです。
また、2007年にレジ袋NOデイとして「容器包装3Rを進める全国ネットワーク」の主催で(環境省、経済産業省、東京都などが後援)、環境アピール活動として、レジ袋有料化についてアンケートを行いました。その後「東京都地域消費者団体連絡会」が中心となり、「レジ袋NOデイ」として、レジ袋辞退率調査を行っており、2012年から毎年、江戸川ネットも参加しています。統一行動日に協力してくれます。



江戸川・生活者ネットワーク区議会議員 伊藤ひとみ



潮がひいたあとの河川敷には大量のプラスチックごみ! (NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム提供)

都政NOW 区市とつなぐ